

Castelo Branco

について



カステロ・ブランコ

カステロ・ブランコ (Castelo Branco) の起源は、定住者がカルドゥサ (Cardosa) の丘にアルビ・カストラム (Albi Castrum) を築いたローマ時代にさかのぼります。アフォンソ2世 (D. Afonso II) は1214年にこの土地をテンプル騎士団に与え、守備と防衛を委ねました。騎士団は城の建設にとりかかりましたが、その城は次第に外へと拡大することになる新しい町の中心となりました。1285年にディニス王 (D. Dinis) とその妃、サンタ・イザベル (Santa Isabel) が国境警備強化の調査と計画のためにこの地方を視察した際、ここに滞在しました。

1510年、マヌエル王 (D.

Manuel) はカステロ・ブランコに勅許状を与えました。勅許状の原本は今も市議会が保管しています。グラース修道院 (Convento da Graça) のアウグスチノ修道会や、サン・アントニオ修道院 (Convento de Santo António) のカプチン修道会など、他の宗教会の到来と同時にミゼリコルディアが設立されました。

1535年にジョアン3世 (D. João III) はこの町に「Vila

Notável (卓越した町)」の称号を与え、世紀末にかけてグアルダ (Guarda) 司教、D.ヌーノ・デ・ノローニャ (D. Nuno de Noronha) は聖職者の冬期の住居としてエписコパル宮殿 (Paço Episcopal) の建設を命じました。宮殿は昔のカステロ・ブランコの境界線の目印として、また現在の町の主な呼び物として今も残っています。現在、この宮殿にはカステロ・ブランコの伝統的な絹の刺繍の歴史を今に伝える重要なフランシスコ・タヴァレス・プロエンサ・ジュニオール博物館 (Museu Francisco Tavares Proença Júnior) が入っています。

1771年、ジョゼ1世 (D. José I) はカステロ・ブランコの管区を設定する際に、この町の商業上の重要性が高まっていることに気づき、市の地位に昇格させ、サン・ミゲル教会 (Igreja de São Miguel) をカテドラルにしました。

台頭しつつあった中産階級が宮殿や邸宅を建てる場所として選択したため、カステロ・ブランコは拡大の中心地となりました。ナポレオンの侵攻に伴う周辺地域での大規模な戦いから回復した後、19世紀末にかけての鉄道の開通によってカステロ・ブランコは重要な産業の中心地となりました。町は主に繊維産業を中心に発展を遂げ、その伝統は今も続いています。

カステロ・ブランコは1日で見て回ることができます。城につながる急傾斜の坂道を登って周辺の田園のすばらしい景色を觀賞してください。